



只見町ブナセンターだより

4月号

震災への対応で3月号を休刊いたしました

元山と木挽って知ってやっかい

只見町の山林にチェーンソーや集材機などの機械が入ってきたのは昭和40年代です。それまでは、すべて人の手で切り出されていました。

木材の伐採は、専門の知識や技術が必要で、危険な重労働でもあります。親方について修行をした専門の職人がありました。とくに「元山（もとやま）」は、必要な原木を山で選んで切る職人のことをいい、伐採の指揮をとりました。「木挽（こびき）」は、切り出した原木から板を作ります。長谷部孝一さん（叶津・昭和4年生まれ）は、親方から受け継いだ元山と木挽の職人巻物を持つ、数少ないひとりです。

—春の山について話を聞かせてけやれ。

「そうだなあ。春の彼岸を過ぎてから、ブナの木を切っと、切り口から水がどんどんあふれてくる。それはなあ。冬になると、寒くてみんな凍みんべ。木は、凍みて枯れちまわねえように、秋のうちに水をみんな下ろしちまう。それで春に暖かくなって、葉がでるめえに、大急ぎで水を吸い上げるんだ。木も、生きるために知恵をしぼってやってんだなあ。

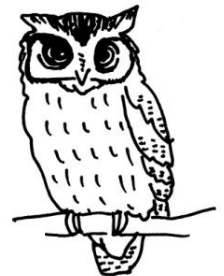
おれは若いころ、叶津や蒲生の奥さ、ひとりで小屋かけて、どんだけブナの木挽きしたかわかんねえ。しんどい仕事だが、夜になってバンドリ（ムササビ）が鳴き鳴きでてきて、まなこ光らせて、木から木へ飛びうつときは、めげえと思ったなあ。ほかにもブッポウソウと鳴くコノハズクや、クマや、クラッポ（ニホンカモシカ）がいっぺえいたが、今はどうしていっかなあ。懐かしいなあ」



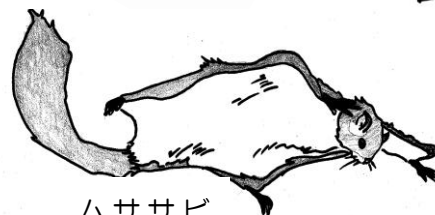
製材に使った
マエツピキ



ブナ



コノハズク



ムササビ

—ブナは何に使ったんだや？

「昔は、ゲタやヘラ、汽車の枕木、鉄砲の銃床、コーシキ(屋根から雪を落とす道具)に使ったのなあ。家さ使うときは、床や上屋や、くるってもさすけねえところに使ったなあ。

家の大黒柱にはケヤキがいいが、只見町には田子倉にあっただけで、後はあっちさ1本、こっちさ1本しかねえんだよ。金山町には、どこさ行ってもあんだがな。だから、ケヤキの代わりにクリを使った。クリは丈夫で、よくカンナかけて色塗ってケヤキに見えっから。

おれは、田子倉や叶津、蒲生、塩ノ岐、遠くは西会津、柳津、本名、カミ(上流)は和泉田まで木挽きに歩いたが、その土地によって生える木が違うだよ。

とくに只見川の東側と西側では、生える木の種類が違う。東はいろんな木があんだ。正月のだんごさしに使うミズノキは、川の東に多くあんべ。コーノキ(カツラ)だって黒谷地区にはあんが、只見地区で、ずねえのは数えるほどだ。

只見川の西は、ブナの木とツバキ(コ

キツバキ)ばかりだ。ツバキは館ノ川地区の椿っばらから東にはねえんだよ」

—山には泊まりで入ったんがや？

「ケヤキを1本切って、木挽きして、山から下ろすのに1カ月は山さ泊まったなあ。山師(やまし)と呼ばれる仲買人に頼まれて、おれは冬も木挽きしたから一年中、山にいた。秋に一里ほど山奥に小屋かけて、米と味噌を上げておく。山で、雪を溶かして水つくって、米研いでまんま煮て、板っこに味噌ぬって焼いたのがおかずだった。

山仕事はいい稼ぎになったから、集落で一番先にテレビを入れたこともあったが、今はブルドーザーで山さあがってワイヤーかけて引っ張り出しちまうんだから、山仕事では稼げねえべな」

— ありがとうでやした。孝一さんは、ケミノやゲンベイなど手仕事の名人でもあります。今度はその話を聞かせてけやれ。

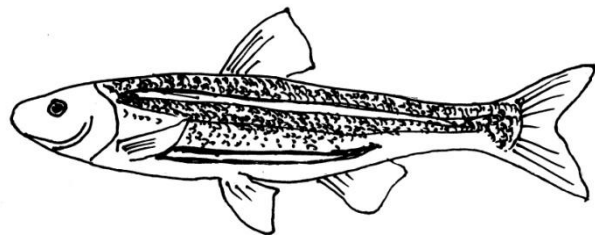
聞き手／晶子

連載・ただみの川の生き物—6

親しみのある魚

ウグイ

コイ目コイ科/鰻(ウグイ) 鮠(ハヤ)



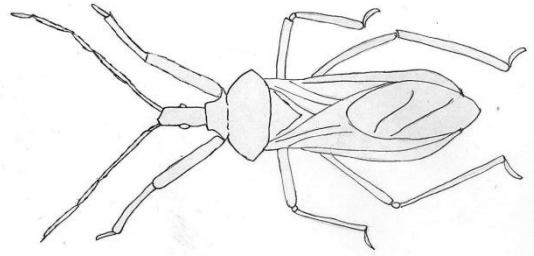
只見町に広く生息する身近な魚で、地元では「ハヤ」「セノヨ」「アカハラ」などと呼ばれます。イワナやヤマメなどの渓流魚に比べて警戒心が弱く、手軽に釣れる魚として親しまれてきました。只見町で獲れるウグイは、泥臭くなくておいしいと好まれ、素揚げにして食べるほか、郷土料理の「お平(ひら)」や「飯鮠(いずし)」に欠かせない魚です。

産卵は、雪解けが落ち着いてフジの花の咲くころ。オスもメスも鮮やかなオレンジ色の婚姻色が3本現われます。1尾のメスに数尾のオスが集まり、川底が見えないほどに群れています。

野山のハンター

オオトビサシガメ

カメムシ目サシガメ科/大鷲刺龜虫



嫌な臭いを出すカメムシの中には、肉食性で他の昆虫などを捕食するサシガメ（いわゆる刺すカメムシ）というグループがあります。今回紹介するオオトビサシガメは、只見町で普通に見られる大型のサシガメです。

体長は 2.5cm ほど、体色は茶色でやや細長い体型をしています。彼らは、林縁や樹林に接している草地などに生息していますが、人里で目にする機会が最も多いです。特に秋に建物の壁面に静止している個体をよく見かけます

これまでに何度かオオトビサシガメが他の昆虫を捕食している場面を観察したことがあります。捕食する瞬間を私は見たことはありません。昨年春、スギの伐採木上でヒメスギカミキリを捕食しているのを見つけました。伐採した木の上を素早く歩き回るヒメスギカミキリを、動きがゆったりしているオオトビサシガメがどのようにして捕らえるのか、ぜひ確認したいです。

筆者●角田亘さん／1974年、只見町小林で生まれ育つ。横須賀市自然・人文博物館研究員を経て、現在は神奈川県で造園業に就く。只見町での昆虫採集をライフワークとし、現在 2000 種以上を採集。

※2月号のオオムラサキは、トチョウ目ではなく、チョウ目です。訂正してお詫びいたします。

【町内の自然とふれあうイベント情報】

○要害山トレッキング

5月15日(日)

集合時間：午前9時(小雨決行)

集合場所：JR 只見駅前広場

主催：只見町観光まちづくり協会

問い合わせ：0241-82-5250

○只見三名山山開き(予定)

・蒲生岳山開き 6月5日(日)

主催：蒲生集落活性化委員会

・会津朝日岳山開き 6月12日(日)

・浅草岳山開き 6月26日(日)

共催：只見町観光まちづくり協会・只見町

問い合わせ：只見町観光まちづくり協会

0241-82-5250

詳細はwebサイトなどでお知らせします

■ブナを知ろう ⑧

若葉に生えるうぶ毛



○芽吹いたばかりの新葉には、うぶ毛のようにやわらかい毛が生えています。この毛は、やがて葉が大きくなると消えてしまいます。

●4月23日（土）より通常どおり開館いたします

ただみ・ブナと川のミュージアム（只見町ブナセンター）は、東日本大震災の影響にともない3月19日より臨時休館いたしました。特別展示の延期など、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。4月23日（土）より通常どおり開館して、みなさまのお越しをお待ちいたします。

【特別展示】4月23日（土）～6月19日（日）

絶滅危惧種ユビソヤナギのすべて 一国内最大の自生地の全貌を紹介—

※同時開催「森のイラスト プレ原画展」冬に開催を予定している平田美紗子さん（静岡森林管理署）のイラスト展の一部を紹介します

【第11回ブナセンター講座】5月8日（日）午前10時30分～正午

ユビソヤナギの生態と只見の自然 講師：菊地賢さん（独立行政法人森林総合研究所）

【只見町ブナセンター友の会からのお知らせ】



休館にともない、新会員証の送付などの手続きが遅れてしまい、誠に申し訳ございませんでした。すでに平成23年度の更新手続きがお済みの方への会員証の送付は、4月末日までに発送する予定です。なお、会員証がお手元に届く前でもミュージアムをご利用いただけます。

（平成23年度更新のお知らせ）

友の会では、年会費1000円（毎年4月1日～翌年3月31日まで有効）をお願いしております。平成23年度の更新がお済みでない方は、下記の方法にてお手続きください。

○更新の方法

年会費1000円を納入いただき、確認後に会員証を発行いたします。

○納入方法

ミュージアム窓口にて現金でのお支払い・郵便振替・銀行振込などがあります。

[会員特典]

1. 只見町ブナセンターの企画する各種催しに参加することができます。
2. 只見町ブナセンターの情報を受け取ることができます。
3. 只見町ブナセンターの活動を通じて、関連団体と交流を深めることができます。

（新規会員の募集について）

友の会では新規会員を募集しています。ミュージアム窓口にて入会申込書に年会費1000円を添えてお申し込みください。只見町ブナセンターwebサイトからもお申し込みいただけます。

【問い合わせ】只見町ブナセンター友の会事務局（只見町ブナセンター内）Tel 0241-72-8355



Tel 0241 (72) 8355 fax 0241 (72) 8356

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2590番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト <http://www.tadami-buna.jp>

ブログ <http://tadamibuna.blog2.fc2.com/>

E-mail info-buna@amail.plala.or.jp

